

大谷学会

◇春季公開講演会

六月八日(水) 午後一時〜

於 講堂

解決よりも触発を

―不透明な時代の社会学―

本学教授 阿部利洋

近代の憑依と苦惱

東京大学名誉教授 姜 尚中

真宗総合研究所

◇委員会

一月十八日(月) 午後〇時二十分〜

於 博綜館第五会議室

・二〇一六年度「一般研究」の採択について

・S A T大正新脩大藏經テキストデータベース作業スペースの設置について

・東京分室設置における規程細則の制定及び一部改正について

・東京分室設置準備の進捗状況について

・紀要投稿ガイドラインの一部改正について

・その他

二月二十三日(火) 午前十一時〜

於 博綜館第四会議室

・東京分室P D研究員採用について

・モンゴル国立大学との学術交流に関する協定(再協定)

・その他

三月二十五日(金) 午前十時〜

於 博綜館第五会議室

・二〇一六年度「指定研究・資料室」研究組織・研究計画について

・客員研究員の委嘱について

・その他

五月九日(月) 午後一時〜

於 博綜館第五会議室

・特別研究員の人事について

・二〇一六年度研究組織について

・その他

◇二〇一五年度「特定・指定研究」

「資料室」研究成果報告会

三月八日(火) 午後四時〜

於 響流館マルチメディア演習室

◇二〇一五年度第二回研究員総会

三月八日(火) 午後六時十分〜

於 響流館マルチメディア演習室
一号館 Big Valley Cafe

◇大谷大学真宗総合研究所東京分室開所

四月十一日(月)

◇東京分室開所式

四月二十七日(水) 午前十一時〜

於 親鸞仏教センター

(東京都文京区湯島二九一十一)

真宗学会

◇「親鸞教学」第一〇五号発行

(三月十五日)

◇「親鸞教学」第一〇六号発行

(三月二十日)

◇新入会員歓迎講演会ならびに総会

五月十七日(火) 午後一時〜

於 一号館二二〇教室
真宗の学び 本学教授 井上尚実
◇第二回真宗学会例会

六月二十二日(水)午後四時二十分

於 一号館二二三教室

卒業論文梗概発表会

本学大学院修士課程第一学年 五名

〓 仙 教 学 会 〓

◇卒業論文梗概発表会並びに送別懇親会

一月十五日(金)午後五時

於 尋源講堂

卒業論文発表後に記念撮影を行い、Big

Valley Cafeで懇親会を行った。

◇新入会員歓迎講演会

四月十四日(木)午後一時

於 響流館マルチメディア演習室

ブツダはなぜ出家したのか?

本学教授 織田顕祐

〓 哲 学 会 〓

◇春季研究会

三月三日(木)午後四時三十分

於 響流館マルチメディア演習室

ハンス・リッパス解釈学における知識

生成と超越的視座の省察

本学教育・心理学科准教授 田中潤一

ハイデッガー神論再考―「黒ノート」

刊行から見えてきたもの

本学哲学科助教 田鍋良臣

◇『哲学論集』第六十二号発行

(二月二十八日)

〈目次〉

論文

ハイデッガー「黒ノート」の研究

―「考察II-VI」を中心に―

田鍋良臣

ジェイムズ哲学におけるダーウイン主

義的視点 林 研

生業の域内多様度に関する予備的考察

―タイのモン村落における豚飼育の

専門化事例― 中井信介

解釈学的論理学における知識生成とそ

の超越的根源 田中潤一

情報プライバシーについて 渡辺啓真

矛盾をはらんだキャンブル害緩和政策

―若者への予防教育を中心に―

滝口直子

学会活動報告

◇二〇一六年度哲学会総会・

『哲学論集』第六十二号合評会

五月二十六日(木)午後四時二十分

於 響流館マルチメディア演習室

論文合評

矛盾をはらんだキャンブル害緩和政策

―若者への予防教育を中心に―

滝口直子

合評会終了後、懇親会および新入会員

歓迎会を行った。

〓 社 会 学 会 〓

◇社会学科公開講義

六月十五日(水)午後一時

於 響流館メディアホール

ケニアからの報告

生かされて今：アフリカの片隅で子

ども達と共に二十二年…

モヨ・チルドレン・センター主宰

国史学会・日本仏教史学会

松下照美

◇大谷大学日本史の会二月例会

一月二十三日(土) 午後二時

於 響流館演習室三

東寺百合文書の情報発信―京都府総合

資料館の取り組みを通して―

伊藤実矩

◇大谷大学日本史の会三月例会

三月二十六日(土) 午後二時

於 博綜館第三会議室

戦国期武家の契約文書における神仏の

勸請について 山本春奈

◇大谷大学日本史の会五月例会

五月二十一日(土) 午後一時

於 博綜館第四会議室

〈修士論文構想報告会〉

律令制下の官衙と官寺―大宰府と観世

音寺を中心に― 太田 董

日本中世の荘園における仏教行事―仏

教と社会の関わり― 藤江満智子

戦国期における寺院と大名の関係―陣

取・寄宿をめぐる― 湊 悠介

文藝学会

◇「文藝論叢」第八十六号発行

(三月A5判一二四頁)

〔目次〕

『今昔物語集』本朝仏法部の説話構成

(下)―法華経靈験譚を中心に―

千葉恵里香

『清浄法行経』の研究―三菩薩と三聖人

の対応関係再考― 野村卓美

平仮名本『因果物語』にあらわれた仏

教―編集者浅井了意の姿勢―

中川眞二

『文藝学会公開講演会・筆録』

講演本―その面白さと重要性、近代作

家の参考書として― 奥野久美子

『資料紹介』

東北師範大学日本研究叢書からみる日

本問題の最新研究―『偽満歴史文化

与現代中日関係』(上・下)を中心に

― 李 青

現代北京語に関する調査研究―中国ド

ラム「裸婚時代」第三集 Chapter3-01
33-04―

渡部 洋

早川智美

王 秀梅

孫 雪

『元音統韻』未収の部分について―『皇
極統韻』「字有三合曲有四合」を中心
に― 浦山あゆみ

中国文学会

◇学術公開講演会

一月八日(金) 午後一時

於 響流館メディアホール

ICTを活用した外国語学習―中国語

学習とスマートフォンを中心に―

大阪府立大学高等教育推進機構教授

清原文代

英文学会

◇「英文学会会報」第四十二号発行

(三月十日)

〔目次〕

『ヘンリー6世』3部作における紋章の
役割 三浦誉史加

『深夜ブラス』とシトロエンDS

浅若裕彦

二〇一四年度卒業者と卒業論文題目

二〇一五年度卒業予定者と卒業論文題
目

学会だより

国語教育学会

◇卒業論文発表会（ポスターセッション）

一月十五日（金）午後二時四十分～

於 四号館四一〇二教室

小学校における語彙力の育成について

―教材研究・学習指導案・授業実践
の流れの中で―

石橋知佳

「話すこと・聞くこと」の授業について

―「ともごさんはどこかな」の実践
を中心に―

岩崎 冴

「スィミー」の指導法

―五感を刺激する表現に着目して―

奥野映美

パネルシアターにおける指導法

物語教材の指導法

―「かいがら」を中心に―

北川祐観

竹岡 甫

「読むこと」における指導法―「イーハ
トーブの夢」の実践から―

殿村奈緒

説明的文章の指導法―「花の形に秘め
られたふしぎ」を中心に―

平岡万奈

◇「大谷大学国語教育研究」第三号発行
（二月二十五日）

〈目次〉

アクティブ・ラーニングとICTを導
入した国語科の授業―「伝統的な言
語文化と国語の特質に関する事項」
の授業から―

望月謙二

読みの深まりを目指した授業づくり

―他者性の獲得に着目して―

高橋由衣

宮本浩治

「読むこと」から「話すこと・聞くこ
と」「書くこと」へ―『海の命』の実
践を手がかりに―

高橋由衣

宮本浩治

国語科教育におけるアクティブ・ラー
ニングへの一考察―クワイマックス
への指導を手がかりに―

高橋由衣

学生と市民がグループワークで学ぶ環
境問題―初等・中等・高等教育にお
けるアクティブ・ラーニングへの提
言―

高野昭雄

学生が主体的に学ぶ「書写」の指導法
―大学の授業におけるアクティブ・
ラーニング―

望月謙二

他、二〇一五年度の卒業論文七編（題
目・氏名は前記の「卒業論文発表会」
参照）を収録

望月謙二

望月謙二

望月謙二

望月謙二

人文情報学科

◇Welcome Back to Campus Week

三月二十二日（火）午後一時～

ITパスポート試験などの資格試験説
明会

三月二十四日（木）午後一時三十分～

志プロジェクト説明会

三月二十五日（金）午後一時～

タイピング・コンテスト

次年度の学びを確実なものにするため、
当イベントを開催した。

◇社会学科公開講義 ケニアからの報告

六月十五日(水) 午後一時～

於 響流館メディアホール

本学科の学生が動画撮影に協力した。

◇二〇一六年度卒論構想発表会

六月十六日(木) 午後一時～

六月十七日(金) 午後一時～

於 一号館一三〇教室

六月末提出の卒論テーマを検討するた
めに、学科全体でプレゼン大会を開い
た。

ゼミごとにスケジュールを決めて、一
人三分の発表、五分の質疑応答。

短期仏教科

◇『仏教研究紀要』第三十八号発行

(三月十八日)

〈目次〉

『仏教研究紀要』第三十八号発刊に寄せ
て 大谷大学学長 草野顕之

聞法能不忘 仏教科主任 三木彰円

卒業研究・修了レポート要旨

卒業研究・修了レポート全文

如来よりたまわりたる信心

—真の信心とは—

藤岡 宣

韋提希の救い—救いとは何か—

上田喬文

回心—本願に帰す—

脇坂友輝

研究課題名別卒業研究・修了レポート

一覧

卒業研究・修了レポート指導担当者一

学生会員 投稿規程

1. 本学会学生会員で、『大谷学報』に論文の掲載を希望するものは、指導教員の推薦状を添えて投稿できる（一六〇〇〇字以内とする）。
2. 投稿された論文は、審査を経て採否が決定される。
3. 論文の審査は、編集委員および編集委員が選任委嘱する審査委員（若干名）によって行われる。
4. 審査の結果は左記の通りとし、②③の場合には、投稿者にその理由を通知する。
 - ① 採用
 - ② 条件付き採用（修正がなされた場合採用）
 - ③ 不採用
5. この規程は、『大谷学報』第八十九卷第一号より適用される。